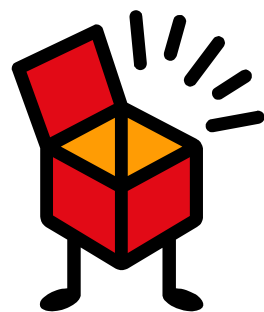


日立金属株式会社
2012年度第1四半期決算説明



Materials Mag!c

2012年7月27日

 日立金属株式会社
Hitachi Metals, Ltd.

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

E-Mail : hmir@hitachi-metals.co.jp

12年度第1四半期(12年4月-6月)

売上高 1,411億円 (11/1Q比109%、11/4Q比 94%) 営業利益 103億円 (11/1Q比△6億円、11/4Q対比 △13億円)

■需要動向

自動車関連分野 : 国内は政策効果も追い風となり堅調に推移、北米も好調が持続。中国・欧州は減速が続く

エレクトロニクス関連: タブレット端末向け等の需要は堅調だがPC向けは低調に推移、液晶関連も調整が継続

産業インフラ分野 : 工作機械関連は調整が続いたものの、国内建設関連は持ち直し傾向、海外需要も堅調に推移

■セグメント別動向(売上高・営業利益)

・高級金属製品セグメント 売上高 577億円(11/1Q比95%、11/4Q比 103%)

営業利益 44億円(11/1Q比△20億円、11/4Q対比+15億円)

⇒工具鋼は国内自動車向けは堅調に推移したが海外向けが低調、液晶・半導体関連の電子材は調整局面継続。アモルファスは回復

・電子・情報部品セグメント 売上高 417億円(11/1Q比140%、11/4Q対比 86%)

営業利益 49億円(11/1Q比+9億円、11/4Q対比 △31億円)

⇒マグネットはFA・家電向けの調整が続いたが自動車向けが堅調に推移。情報部品は体質強化に向けた事業構造改革を実行。

・高級機能部品セグメント 売上高 418億円(11/1Q比108%、11/4Q対比 91%)

営業利益 22億円(11/1Q比+1億円、11/4Q対比 △1億円)

⇒自動車用鋳物およびアルミホイールは国内・北米とも需要増が継続、耐熱鋳造部品は欧州の景気悪化影響が続き減少。

■海外売上高 610億円(海外売上高比率 43.2%)

北米 158億円(構成比 11.2%) アジア 332億円(構成比 23.5%) 欧州 98億円(構成比 6.9%) その他22億円(構成比 1.6%)

今後も不透明な事業環境が続くものと見込むが、自動車関連やインフラ関連は堅調に推移する見込。

引き続き、グローバル拡販を推進するとともに事業構造改革を実行し、次の成長につながるアクションプランを実行していく。

連結業績要約



[単位:億円、()は前年同期比]

	2011年度							2012年度			
	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	年度 実績	1Q実績	(12年4月25日発表)		
									上期予想	下期予想	年度予想
売上高	1,294	1,323	2,617	1,455	1,497	2,952	5,569	1,411 (109%) 11/4Q比 94%	2,840 (109%)	3,060 (104%)	5,900 (106%)
営業利益	109	56	165	168	116	284	449	103 (Δ6) 11/4Q比Δ13	220 (+55)	280 (Δ4)	500 (+51)
経常利益	100	55	155	168	120	288	443	93 (Δ7)	190 (+35)	265 (Δ23)	455 (+12)
(特別損益)	Δ0	Δ2	Δ2	Δ34	Δ43	Δ77	Δ79	+24 (+24)	20 (+22)	Δ15 (+62)	5 (+84)
税前利益	100	53	153	134	77	211	364	117 (+17)	210 (+57)	250 (+39)	460 (+96)
当期純利益	62	6	68	79	32	111	179	73 (+11)	125 (+57)	160 (+49)	285 (+106)
設備投資額	42	59	101	48	94	142	243	67 (+25)	170 (+69)	150 (+8)	320 (+77)
減価償却費	66	68	134	69	72	141	275	57 (Δ9)	140 (+6)	150 (+9)	290 (+15)
研究開発費	28	30	58	31	33	64	122	28 (±0)	61 (+3)	62 (Δ2)	123 (+1)

12年度第1四半期セグメント別業績

売上高 1,411億円 11/1Q比109%、11/4Q比94%

高級金属製品セグメント 577億円 (11/1Q比 95%、11/4Q比103%)
 電子・情報部品セグメント 417億円 (11/1Q比 140%、11/4Q比 86%)
 高級機能部品セグメント 418億円 (11/1Q比 108%、11/4Q比 91%)

■高級金属製品セグメント

特殊鋼は、工具鋼は海外需要は回復していないものの、国内需要は堅調に推移、電子材は液晶関連が低調に推移。ロールは海外需要が堅調に推移。アモルファスは中国向けが回復、インド向けも好調に推移。

■電子・情報部品セグメント

マグネットは、ネオジム磁石はFA向けに調整があったものの、自動車関連はHEV向けを中心として好調に推移、フェライト磁石も自動車、家電向けともに好調に推移。情報部品は、太陽光関連製品の需要に動きがでており上向き傾向だが、携帯電話関連製品の需要減が継続。

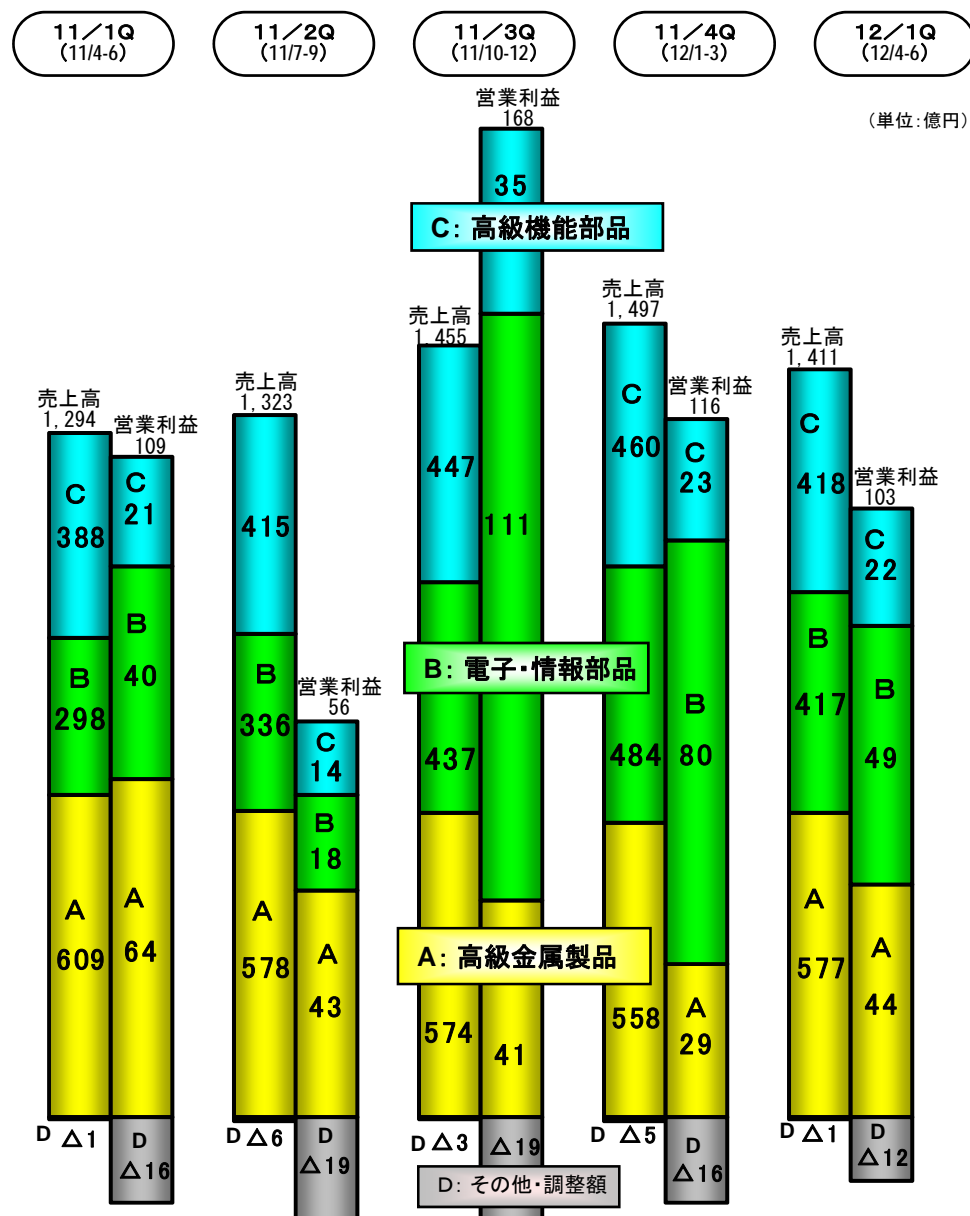
■高級機能部品セグメント

自動車用鋳物は、NM(ダクタイル鋳鉄製品)は引き続き北米・アジア市場での販売が好調に推移、ハーキュナイトは欧州地域向けの回復が遅れているものの緩やかな回復傾向へ。アルミホイールは国内外とも堅調。配管機器は建設持ち直しによる需要はあるものの復興需要の動きはまだ本格化せず。

営業利益 103億円 11/1Q比6億円減、11/4Q比13億円減

高級金属製品セグメント 44億円 (11/1Q比20億円減、11/4Q比15億円増)
 電子・情報部品セグメント 49億円 (11/1Q比 9億円増、11/4Q比31億円減)
 高級機能部品セグメント 22億円 (11/1Q比 1億円増、11/4Q比 1億円減)

海外向けインフラ関連製品の需要回復や情報部品事業の体質強化等による寄与があった一方、エレクトロニクス関連製品が低調に推移したこと等により前年同期(11/1Q)対比6億円減、前期(11/4Q)対比13億円減となった。



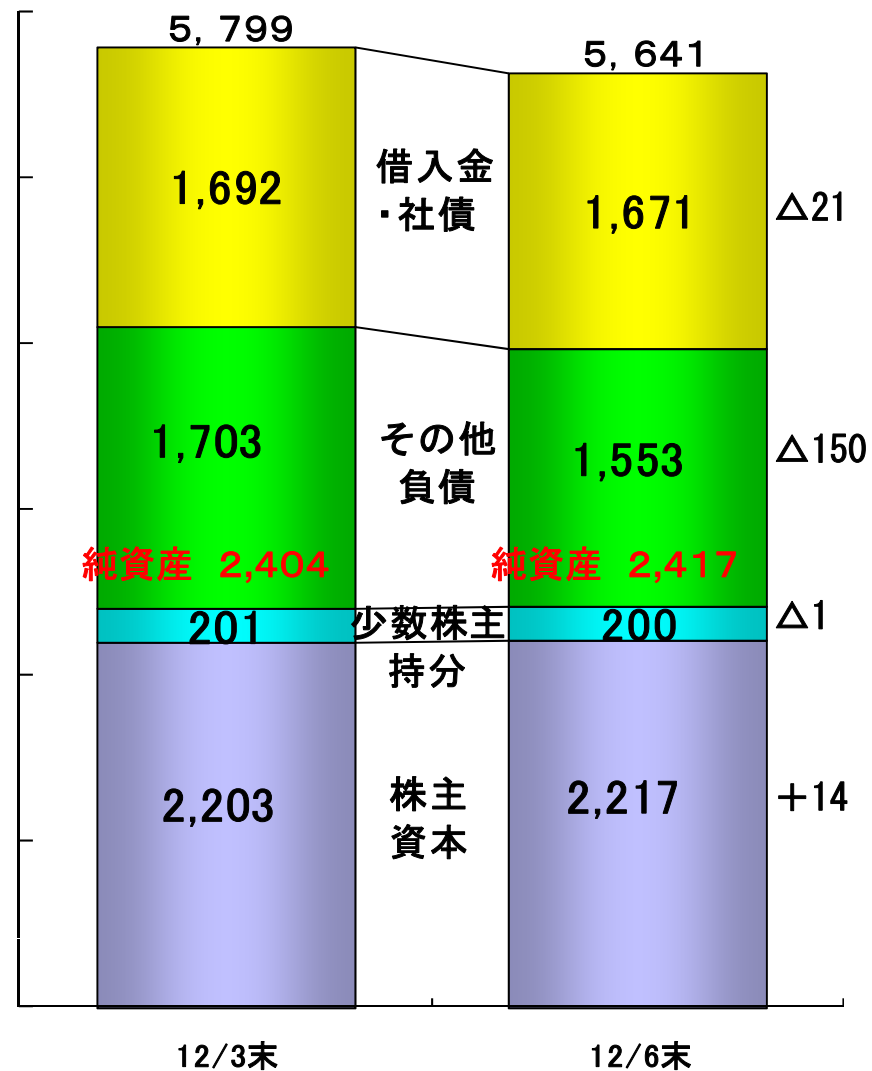
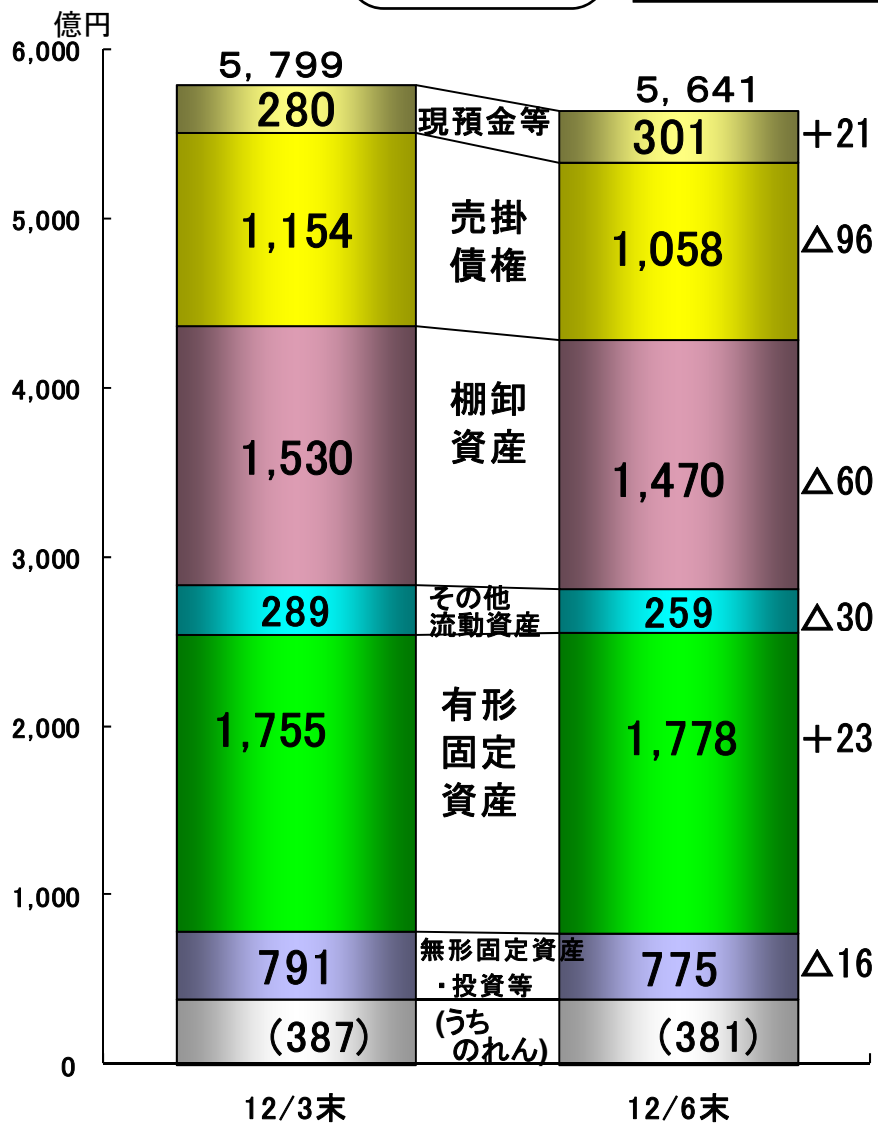
*12年度より「軟磁性材料」は電子・情報部品セグメントから高級金属製品セグメントへ区分変更しております。この変更に伴い前年度(11年度)実績についても変更後の区分に基づき作成、表示しております。

連結B/S残高

12/3末比増減 $\Delta 158$ 億円
D/Eレシオ 0.75

資産

負債・純資産



連結キャッシュ・フロー

(億円)

科 目	11/1Q	12/1Q
現金及び現金同等物期首残高	340	280
税金等調整前当期利益	100	117
減価償却費	66	57
棚卸資産の増減	△128	17
その他	16	△46
営業キャッシュ・フロー	54	145
設備投資	△42	△67
その他	△2	△7
フリーキャッシュ・フロー	10	71
借入金・社債の増減	27	△10
配当金支払他	△28	△29
ネットキャッシュ・フロー	9	32
為替換算差額他	△4	△11
増加額または減少額合計	5	21
現金及び現金同等物期末残高	345	301

(注) 設備投資は検収ベース

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動